

SCREEN

株主通信

SUMMER 2017

2017年3月期

決算報告

VOL.
103

事業紹介	1
株主の皆さまへ	3
連結決算ハイライト	5
セグメント別業績	6
経営計画	7
2017年3月期の 主なトピックス	9
SCREENの技術のヒミツ	11
主要連結財務諸表	13



Fit your needs, Fit your future

期待に応じて、未来を形に…

SCREEN NOW

Our Business 事業紹介

世界トップレベルの製品を有する主要事業 有望市場に挑戦する新規事業



半導体ソリューション(SE)事業
洗浄分野を中心とした半導体製造装置

枚葉式洗浄装置※1
バッチ式洗浄装置※2・スピンスクラバー※3



世界シェア

No.1

グラフィックソリューション(GA)事業
印刷関連機器



CTP装置※4

世界シェア

No.1

ファインテックソリューション(FT)事業
ディスプレイ製造装置および成膜装置

コーターデベロッパ―※5



世界シェア

No.1

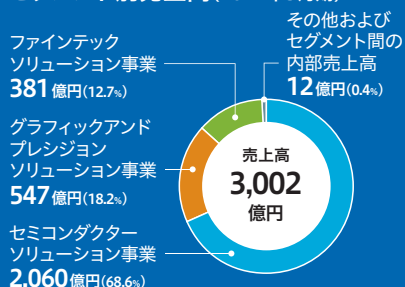
PEソリューション(PE)事業
プリント基板関連機器

直接描画装置※6

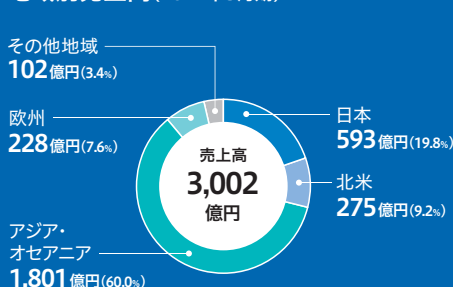


※2017年4月1日にGP事業からPE事業を分社化しました。

セグメント別売上高(2017年3月期)



地域別売上高(2017年3月期)



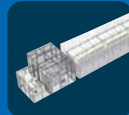
- ※1 ウエハーを1枚ずつ処理する洗浄装置。
- ※2 複数のウエハーを一括で処理する洗浄装置。
- ※3 ウエハーを軟らかいブラシと純水で物理洗浄する装置。
- ※4 コンピュータで制作したデジタルデータからダイレクトに刷版を作ることができる装置。
- ※5 レジスト(感光液)をガラス基板上に均一に塗布し、現像する装置。
- ※6 回路パターンおよびソルダーレジストを高速・高精細に直接描画(露光)する装置。



新規事業

エネルギー分野

リチウムイオン電池
製造装置



検査計測分野

鍛造部品検査装置



ライフサイエンス分野

高速3D細胞スキャナー



プリントド エレクトロニクス分野

超精密グラビアオフセット
枚葉式印刷装置



過去最高の営業利益、営業利益率 4期連続の増収増益を 達成できました。

当期の業績総括と株主配当

平素より当社への格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当期(2017年3月期)の当社グループ連結売上高は、3,002億円(前期比15.6%増)となり、10年ぶりに3,000億円の大台に乗せることができました。利益面につきましても、連結営業利益は過去最高の337億円(同43.2%増)、営業利益率も過去最高の11.2%となり、収益性が大きく向上しました。経常利益・親会社に帰属する当期純利益につきましても、それぞれ320億円(同38.1%増)、241億円(同28.5%増)と前期から大きく増加し、4期連続の増収増益を果たしました。

当期の好業績を牽引した主要因は、SE事業とFT事業でした。特にSE事業は、アジア地域を中心にファウンドリー向けやメモリーメーカー向けの販売が大きく伸びたことで、売上、営業利益、通期受注累計は過去最高となり、営業利益においては前期を大きく上回る高水準を達成しました。売上高成長率は世界の半導体製造装置メーカー上位10社中トップとなり、枚葉式洗浄装置については世界シェアを13ポイントアップするなど、嬉しい記録が並びました。また、

株式会社 SCREEN ホールディングス
代表取締役 取締役社長
最高経営責任者(CEO)

垣内 永次

FT事業においても液晶(LCD)の好調な投資に支えられ、前期比大幅増収増益となりました。

この好業績を踏まえ、株主の皆さまへの当期配当は、過去最高となる一株当たり87円(増配)とさせていただきます。

配当金実績および配当予想 (単位:円)

	2017年3月期	2018年3月期 (次期予想)
1株あたりの 年間配当金	87.00	87.00

詳細につきましては、以下ウェブサイト「IR情報」で説明しています。
<http://www.screen.co.jp/ir/individ/dividend.html>

中期3カ年経営計画 「Challenge 2016」の振り返り

当期は、中期3カ年経営計画(以下、中計)「Challenge 2016」の最終年度でもありました。

「Challenge 2016」に掲げた3つの目標のうち、第1の目標である「収益構造改革」と、その数値目標として設定した「営業利益率10%以上」に関しましては、先述のとおりSE事業、FT事業の収益性向上などにより無事達成することができました。また第2の目標である「財務体質の強化、最終年度の自己資本比率50%以上」につきましても、実質的には目標を達成しています。当期は前期比でフリーキャッシュ・フローの大幅増や有利子負債の削減により、期を通してネットキャッシュポジション(実質無借金経営)を維持することができました。

第3の目標「4つの新規事業領域での黒字化」については、計画時の想定よりも事業化に時間を要しており、残念ながら今期中計への持ち越しとなりました。しかしながら、新規

分野のうちFT事業内で進めているエネルギー関連は、既に年間売上が20億円レベルに到達しており、また、他の新規領域(検査計測、ライフサイエンス、プリンテッドエレクトロニクス)に関しましては、お客さまでの評価段階であり、今後は売上フェーズへと移行していきます。

今期の展望と中長期の方針

今期(2018年3月期)からは「グループの成長と質の向上」を基本コンセプトとする新たな中計「Challenge 2019」をスタートしました(詳細はP7、8をご覧ください)。中計初年度となる今期の業績予想については、下記の表のとおりです。

当社事業を取り巻く環境は変化が非常に激しく、これに対応していくには「スピード」と「イノベーション」が求められますが、常にビジネスチャンスは存在し、市場としても成長し続けるものと認識しています。「Challenge 2016」で確立した収益構造と財務基盤を維持しつつ、「Challenge 2019」では、利益創出はもとより、ESG*に重点を置いたCSR経営により、持続的な事業成長と企業価値向上を目指していきます。

また、株主の皆さまへの配当につきましても、「連結総還元性向25%以上」を目標に、皆さまへの利益還元に努めていきます。引き続き、当社グループへの温かいご理解、ご支援をお願い申し上げます。

※環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)の略称。

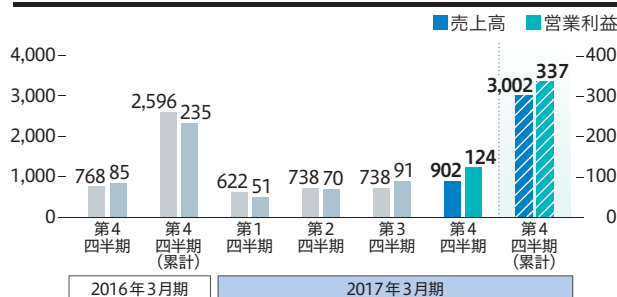
2018年3月期の連結業績予想 (単位:億円)

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
3,050	340	337	223

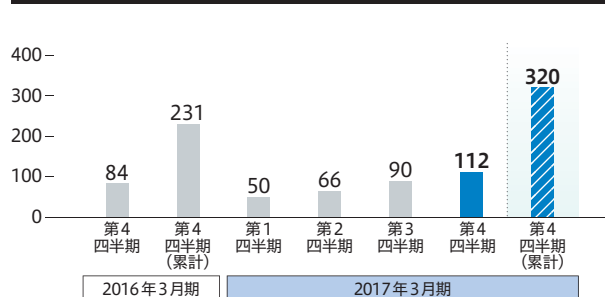
Highlight 連結決算ハイライト

(注) 財務数値につきましては、金額は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表示しています。

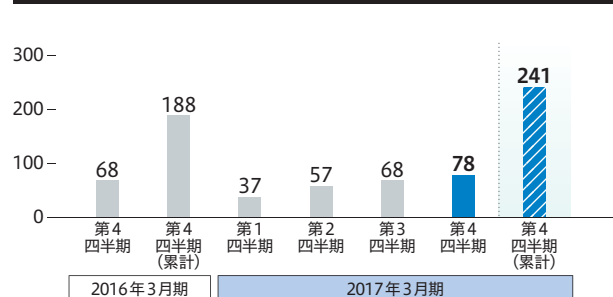
売上高・営業利益 (億円)



経常利益 (億円)



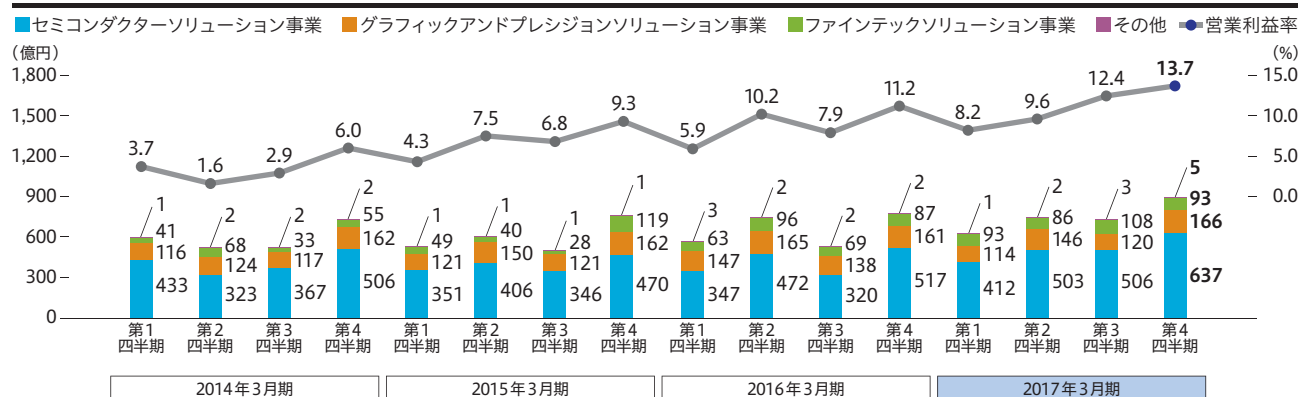
親会社株主に帰属する四半期純利益 (億円)



受注高・受注残高 (億円)



セグメント別売上高・営業利益率





セミコンダクターソリューション事業

当期の業績

売上高 **2,060**億円
(前期比 24.3% 増)

営業利益 **293**億円
(前期比 56.6% 増)

ファウンドリー（半導体の受託生産を行う企業）やメモリーメーカー向け洗浄装置の売上が前期（2016年3月期）と比べ、増加しました。地域別では台湾や中国を中心に売上が大幅に増加しました。今期（2018年3月期）は3D-NANDのさらなる多層化投資、DRAMの微細化投資、中国の新興ユーザーの投資開始の可能性もあり、好調な市場環境が予想されます。



グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業

当期の業績

売上高 **547**億円
(前期比 10.7% 減)

営業利益 **22**億円
(前期比 29.8% 減)

印刷関連機器（GA）事業は、POD※装置の市場浸透を進めたものの、円高影響を受け、海外の売上が減少し、国内の売上も低調であったことから、全体売上が減少しました。今期は海外を中心にPOD※装置の販売拡大を図り、売上と収益の改善を進めます。一方、プリント基板関連機器（PE）事業の売上は前期並みとなりました。今期は新製品のリリースなどにより、売上拡大を目指します。

※Print on Demandの略。



ファインテックソリューション事業

当期の業績

売上高 **381**億円
(前期比 20.6% 増)

営業利益 **43**億円
(前期比 59.8% 増)

前期に比べ、中国向けの大型パネル用製造装置の売上は減少しましたが、国内や中国・台湾向けの中小型パネル用製造装置の売上が増加し、増収増益となりました。今期は、液晶（LCD）ディスプレイはもとより、今後の市場拡大が予想される有機EL（OLED）ディスプレイ関連装置の売上増加を見込んでいます。

新中期3カ年経営計画「Challenge 2019」の策定

当社を取り巻く環境は、変化が激しく、「スピード」と「イノベーション」が求められますが、それゆえ常にビジネスチャンスは存在し、市場としても成長し続けるものと認識しています。そのような環境下、「Challenge 2019」では、前中期3カ年経営計画で確立した収益構造と財務基盤を維持しつつ、グループの成長と質の向上を目指し、持続的な利益創出や株主還元などを推進していきます。

Challenge 2016

前中期3カ年経営計画の振り返り

目標 1

収益構造改革の完遂
最終年度の営業利益率 10%以上

→ 全社で営業利益率 11.2%を達成

目標 2

財務体質の強化
最終年度の自己資本比率 50%以上

→ 自己資本比率、実質 50%達成

目標 3

新規事業領域での事業化
4つの新規事業領域で黒字化

→ 次期中計へ持ち越し課題に

エネルギー（FT）は、年間売上が20億円を超えるレベルに到達。検査計測、ライフサイエンス、プリントドエレクトロニクスは、装置評価に想定より時間を要し、事業化が遅れた。

新中期3カ年経営計画

基本コンセプト

グループの成長と質の向上

グループ全体の取り組み

- **既存事業における損益分岐点売上高比率の改善**
売上の変動に応じた損益分岐点売上高のコントロール
- **装置ビジネスをベースとした周辺領域における収益基盤の確立**
改造を含むポストセールス（GA分野では消耗品ビジネス含む）のさらなる強化
- **一定の財務規律を維持しながらも、積極的に成長投資を実行**
効果的なM&Aの検討・実施。オープンイノベーション戦略としての研究機関、他社などとの協業、業務提携、ベンチャー企業への出資・支援などの検討・実施
- **ESGに重点をおいたCSR経営の推進**
E: 「環境価値」を創造し、低炭素・循環型社会への貢献
S: ディーセント・ワーク（働き甲斐のある人間らしい仕事）の実現と、社会的価値の創造
G: 守りと攻めのガバナンス体制の推進とESG情報の開示
- **株主還元の充実**
連結総還元性向 25%以上を目指す

Challenge 2019

目標 1

売上規模の拡大

単年度連結売上高

3,000 億円レベル

目標 2

収益性の維持・向上

最終年度の営業利益率

13 %以上

目標 3

資本効率の維持・向上

ROE

15 %レベル

各事業の取り組み

SE事業

市場平均を上回る
成長率を目指す

- メモリー、後工程での売上増加、熱処理装置のシェア拡大に注力
- 成長が見込まれているAdvanced Package分野への進出



GA事業

シェア拡大と
収益構造改革の断行

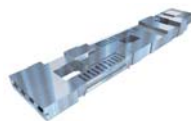
- CTPの売上維持とPODの販売強化
- 安定かつ成長の見込めるインクビジネスでの売上増加
- 在庫抑制と収益体質改革



FT事業

新たな事業ポート
フォリオを構築

- 有機EL(OLED)、フレキシブルディスプレイ、車載用などの新アプリケーション向け売上拡大
- 新規事業(成膜)の売上増加



PE事業

市場での
プレゼンス向上

- 新製品投入による売上拡大

(2017年4月より独立セグメントとしてスタート)



新規事業

成長市場向けに製品
ラインナップ拡充

- 顧客企業での装置評価から売上フェーズに移行



新製品

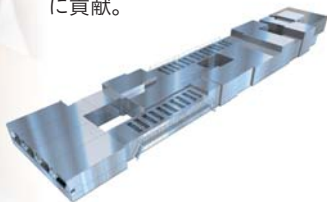


5月

塗布装置

「SK-Pシリーズ」を発売

有機EL(OLED)などの高品質フレキシブルディスプレイの量産に貢献。



6月

「drupa2016」に出展

世界最大の総合印刷機材展「drupa2016」でPODやインク、ネットワークサービスの新製品をリリース。



9月

枚葉式洗浄装置

「SU-3300」を発売

定評のある「SUシリーズ」に7年ぶりとなる新製品登場。世界最高水準の生産性と高い処理能力を実現。

経営・技術開発

2016

- 4月 | FUKとディスプレイ製造プロセス後半工程装置に関する包括提携
- 6月 | BHS Corrugated社(ドイツ)と独占的パートナーシップを締結。成長の見込めるダンボール箱製造のインライン型デジタル印刷など、新分野に特化した会社を設立
- 7月 | 取締役会の実効性に関する評価を実施
タイ(バンコク北部)にプリント基板関連の保守サービス会社を設立
- 8月 | 2016年JPX日経インデックス400銘柄に選定

- 9月 | 上海にファインテックソリューション事業子会社「SCREEN Finetech Solutions Shanghai Co., Ltd」を設立、9月1日営業開始
- 10月 | 次世代リチウムイオン電池開発の米国ベンチャーに出資
株式併合(5株→1株)、単元株数を100株に変更
「国連グローバル・コンパクト」への参加
知的財産管理の機能会社「株式会社SCREEN IPソリューションズ」設立。
10月1日営業を開始



- 株式会社 SCREEN ホールディングス
- 株式会社 SCREEN セミコンダクターソリューションズ
- 株式会社 SCREEN グラフィックアンドプレジジョンソリューションズ
- 株式会社 SCREEN ファインテックソリューションズ
- 新規事業



11月 燃料電池製造装置 「RTシリーズ」を開発

直接塗工法による量産製造技術
を確立。生産性の大幅な向上と生産
コスト低減を同時に実現。



1月 直接描画露光装置 「DW-3000 for PLP」 を発売

半導体の薄型化・低コスト化を実現
するFOPLP※向け露光装置。世界
最高水準の2μmの解像度を持つ。
※ Fan-Out Panel Level Package



3月 ハイスループット細胞外 電位記録システム 「MED64 Presto」を発売

2016年2月にグループ入りした
子会社による開発。iPS/ES細胞
由来の神経細胞・心筋細胞を使用
した創薬スクリーニングに貢献。

■ ソフトウェア関連事業会社「株式会社 SCREEN アドバンス
トシステムソリューションズ」設立。10月1日営業を開始

■ IBM Researchとニューヨーク・アルバニーでの最先端
ロジックプロセス共同研究に合意

■ PEをGPから分社(2017年4月1日より)を発表

12月 ■ Letiとレーザーアニール技術の共同開発に合意

■ 日本格付研究所(JCR)による当社格付、1ノッチアップ。
「BBB」から「BBB+」へ格上げ

2017

1月 ■ 世界初、冷間鍛造部品の外観検査技術を開発

■ ヒラギノフォントが国際都市・神戸の多言語案内サインに採用

3月 ■ 自己株式の取得

主力工場「彦根事業所」を取材！！

当社グループの主要事業である、SE事業とFT事業の中核を担う製造工場を備えた彦根事業所。1963年に開設されて以来、最新の装置生産工場の建設を続け、その敷地面積は東京ドームの約3倍に当たる142,748m²にも及びます。

彦根事業所の外観
新幹線の線路が近く、窓から見えることも。

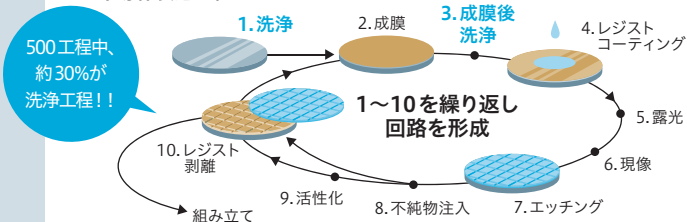


半導体製造装置製造工場(SE事業)

半導体洗浄装置が実現する洗浄度は 球場内に約20μmのゴミが30個以下！！

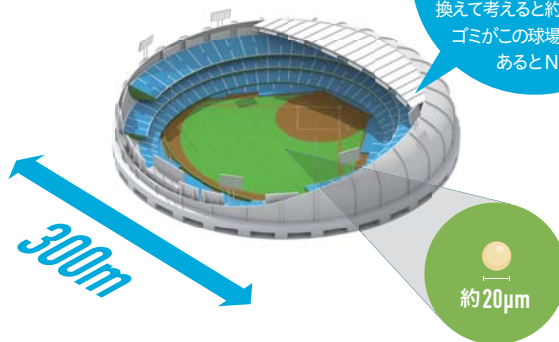
半導体チップの製造には500以上の工程がありますが、そのうち150が洗浄で、全体の約30%を占めています。これは基板となるシリコン上に少しでも汚れがあると回路に欠陥が生じてしまうため、特に微細化が進む現在、超微細なパーティクル(異物)も逃さず除去することが求められます。当社の洗浄装置には、印刷技術を得意とする当社ならではの独自の方式が使われています。そしてそのような重要な工程を担う洗浄装置を製造するため、工場の環境もクラス10,000(30cm³の中に0.5μmのゴミが100個以下)という非常に高い清浄度を保っています。

半導体製造工程



半導体製造時の清浄度

300mmのシリコンウエハーを直径300mの野球場に置き換えて考えると約20μmのゴミがこの球場に30個あるとNG



POINT



進捗はタブレット管理

- 1つの洗浄装置に10人ほど同時に作業
- タブレットで各自の進捗管理を入力し、工程管理
- デジタル化によるスピードアップ



クリーンルームは超清浄

- 30cm³の中に0.5μmのゴミが100個以下

「彦根事業所」はこんなところです！



最寄り駅は近江鉄道「スクリーン駅」。2007年12月にオープン。従業員の利便性を考えて設置しました。



展示コーナーがあり、初期のカメラやスキャナを見ることができます。

事業所概要

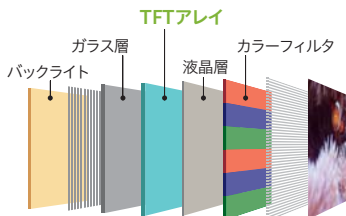
所在地：彦根市高宮町480番地の1
敷地面積：142,748平方メートル
事業所開設：1963年3月
事業内容：半導体機器製造装置、FPD(液晶)製造装置の開発、生産

フラットパネルディスプレイ製造装置製造工場(FT事業)

テレビ、スマホ、PCのディスプレイを製造する コーターデベロッパは大型旅客機と同じサイズ!?

彦根事業所で製造しているコーターデベロッパは、厚さ0.5mm程度のガラス基板上に回路を作る装置で、洗浄からレジスト(感光液)塗布、露光、現像などの各工程が連なった部屋のようになっており、それぞれの工程を自動で繰り返し、複雑な集積回路を作ります。工場は長さ85m、幅50m、高さ6mと大型旅客機にも匹敵する大きさで、第8世代の大型テレビ用ディスプレイ製造装置を3台並べることができる広さです。中国での需要の高まりを受け、現地に設立したグループ会社と連携し、技術者を派遣しながら現地での組立にも取り組んでいます。

液晶画面の構造



TFTアレイの製造に コーターデベロッパ が活躍

レジスト(感光液)をガラス基板上に均一に塗布し、現像する装置にコーターデベロッパが使われており、ディスプレイの高精細化・高画質化に貢献しています。



POINT

技術者を派遣し、現地組立でコスト削減

- コーターデベロッパはお客さまに合わせカスタマイズが必要
- 彦根事業所で1台製造し、動作確認
- 残りは技術者を派遣し、現地で組立・動作チェック
- 現地で組立することでコストの削減につながる

工場内部の様子

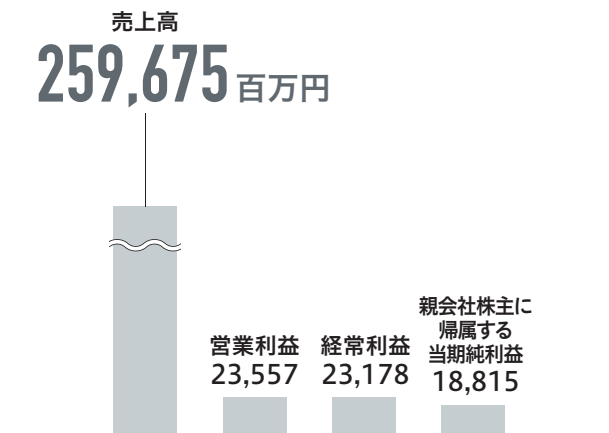


Financial Data

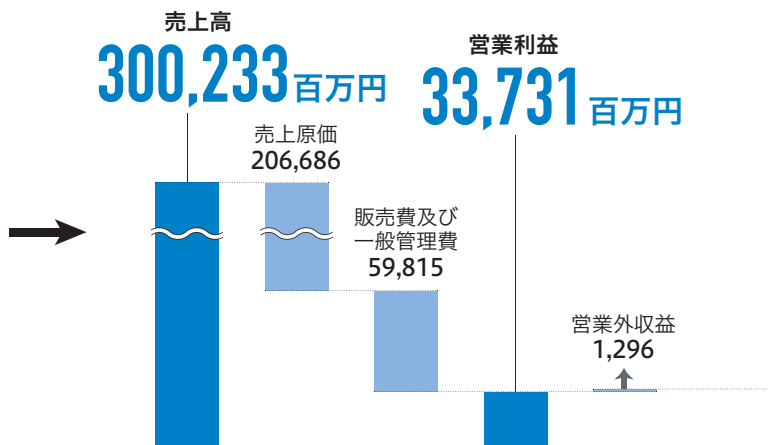
主要連結財務諸表

連結損益計算書

前期累計(2016年3月期)

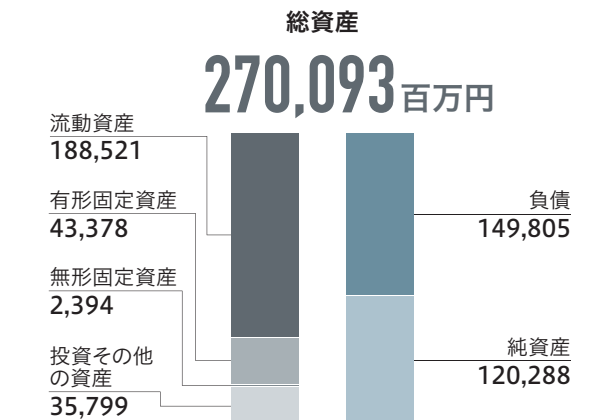


当期累計(2017年3月期)

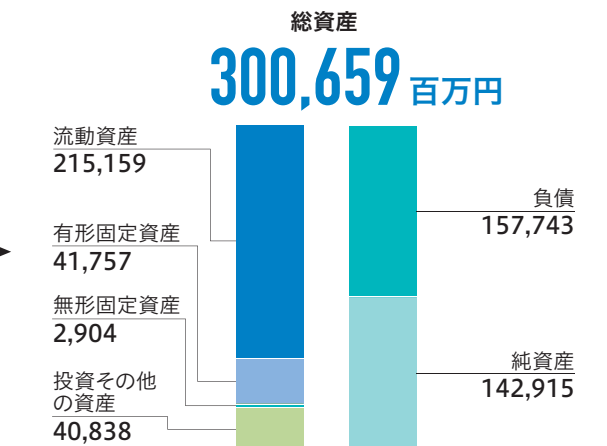


連結貸借対照表

前期末(2016年3月期)

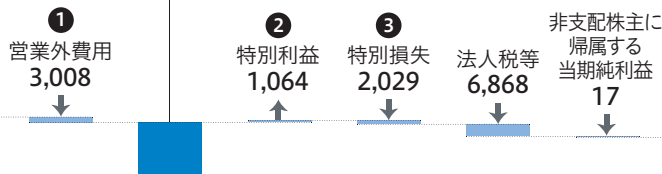


当期末(2017年3月期)



経常利益
32,019百万円

親会社株主に帰属する
当期純利益
24,168百万円



連結損益計算書POINT

- ① 営業外費用については、固定資産除却損1,231百万円を計上しました。
- ② 特別利益については、投資有価証券売却益1,064百万円を計上しました。
- ③ 特別損失については、固定資産に係る減損損失など1,855百万円を計上しました。

連結キャッシュ・フロー計算書

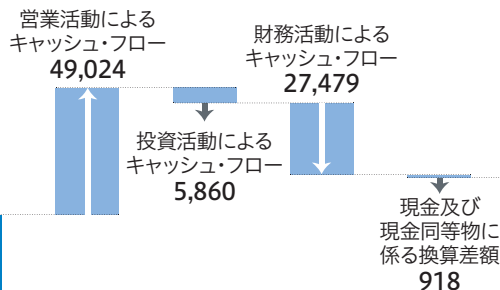
当期累計 (2017年3月期)

現金及び現金同等物の
期首残高

30,156百万円

現金及び現金同等物の
期末残高

44,922百万円



連結キャッシュ・フロー計算書POINT

- 営業キャッシュ・フローは、売上債権の減少、仕入債務の増加、前受金の増加などの収入項目が、たな卸資産の増加などの支出項目を上回り、49,024百万円の収入(前期は14,720百万円の収入)と大幅に改善しました。
- フリーキャッシュ・フロー(営業キャッシュ・フロー+投資キャッシュ・フロー)は、43,164百万円と高水準になりました。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 3月31日 ※当社は中間配当制度を採用しておりません。
単元株式数	100株 ※2016年10月1日をもって、単元株式数を1,000株から100株に変更し、当社普通株式5株を1株に併合いたしました。
公告方法	電子公告により、当社ウェブサイトに掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話:0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

1. 「特別口座」に記録された株式をお持ちの株主さま

株券電子化までに証券保管振替機構(ほふり)に株券を預託されなかった株主さまの株式は、当社が三井住友信託銀行に開設しました「特別口座」に記録されています。特別口座では、株式の売買が制限されておりご不便かと存じますので、証券会社に開設されました一般口座へ振替されることをお勧めいたします。お手続きの詳細は上記の三井住友信託銀行にお問い合わせください。

2. 単元未満株式をお持ちの株主さま

当社に対して、次の請求を行うことができます。

【買増請求】 単元株式(100株)に不足する株式の買増し

【買取請求】 単元未満株式の買取

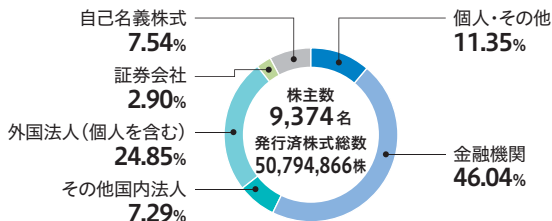
お手続きの詳細は、お取引の証券会社(特別口座が開設されました株主さまは、三井住友信託銀行)にお問い合わせください。

株主さま向けに「彦根事業所見学会」を実施

2017年3月8日彦根事業所見学会を開催しました。ご参加いただいた皆さまには、製造現場を間近でご覧いただくとともに、垣内社長より今後の成長戦略をお話させていただきました。



株式所有者別状況 (2017年3月31日現在)



個人投資家さま向けウェブサイトのご案内

当社グループの歩み、事業領域、強みやこれからの成長戦略などをわかりやすく紹介するウェブサイトを定期的に更新しております。

www.screen.co.jp/ir/indiv/index.html

SCREEN 個人投資家 で検索

(注)本誌にて提供する業績予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。

株式会社 SCREENホールディングス

〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る四丁目天神北町1番地の1 電話075-414-7233

www.screen.co.jp 証券コード:7735

SCREEN NOW Vol.103 発行日:2017年6月27日(発行は3月、6月、9月、12月) 発行:IR室

「SCREEN NOW」(株主通信)は、当社のフォント「ヒラギノ書体」を使用しております。

UD FONT
by HIRAGINO



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

IR-SN-103